

令和元年度総合教育会議議事録

- 開催日時 令和元年10月28日(月)午後1時30分～2時50分
- 開催場所 本庁舎2階会議室
- 出席者 藤原淳(市長)、鳩岡矩雄(教育長)、槻館行男(教育委員)、菅原ゆかり(教育委員)、玉川貴広(教育委員)、佐々木千穂(教育委員)
- 事務局職員 玉懸邦将(教育部長)、澤田善治(教育部副部長)、山火敏幸(学力向上推進監)、山田善之(文化財課長)、三上敬子(図書館長) 田中館淳一(総合政策部長)、小野昭徳(政策推進課長)、長畑宏範(教育企画課副主幹兼教育企画係長)

1 開 会

(玉懸教育部長)

本日の会議の進行を務めます教育部長の玉懸でございます。

ただいまから、令和元年度二戸市総合教育会議を開会いたします。

なお、本日の会議終了時刻は2時45分ごろを予定しております。

会議に先立ちまして、市側職員の出席者を紹介いたします。市長部局からは、田中館総合政策部長と小野政策推進課長が同席しております。また、教育委員会事務局からは、澤田副部長、教育企画課 山火学力向上推進監、山田文化財課長、三上図書館長、教育企画課長畑副主幹が同席しております。

それでは、次第に沿いまして進めます。

はじめに、藤原市長がごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(1) 市長あいさつ

(藤原市長)

皆さんにおかれましては、お忙しい中ご出席賜りましてありがとうございます。また、日ごろより、二戸市の教育行政につきまして、多大なるご尽力を賜りまして御礼を申し上げます。

私は、一言で言いますと、ここにあります教育大綱の基本理念に掲げる、教育長がいつもおっしゃる「学びの広がるまちづくり 未来の広がるひとづくり」のと通りの教育行政になっていると思っております。

ソフト事業では、槻蔭舎きぼう塾、東京学芸大学との交流、そしてグラスゴーへの派遣、あるいは今年から始めた子ども新聞については、岩手日報の社長から「二戸は良い取り組みを始めてもらいました」と言われます。先日、二戸西小学校に行ってみたら、新聞を活用した授業の成果について、子供たちが発表した様子を貼っているものを見て「いいなあ」と感じてきたところです。先般のSNSの新聞記事は、中学生が自分たちで話し合い、スマホの決まりを決めたことが載っていきまして、本当に進んでいるなと思っております。

特別支援学校については、先般、県の教育長が来る前に、小学校、中学校、高校と見ました。福岡中学校の中に入って、本当に先生方は偉いと改めて感じたわけであります。また、支援学級の隣に教室が一つありまして、そこについては教育長から我々の時代の何々学級と言われました。いろんなことに配慮しながら人を育て、教育いろいろ広めていると感じたわけでございます。

ハード面では、トイレの洋式化はスピードが上がっていませんが、それぞれの学校には予算に応じて進めておりますし、エアコンについては、国からいきなり来たので、寒くなってから設置されたところもあるとは思いますが、来年からフル稼働しながら、教育環境を作っていければと思います。

県の支援学校については、これから県にお願いしながら、計画に載せて、実施に向けて進めて行くというところですよ。

それから、各社会教育では、皆さん、絵や習字など様々な面でもすばらしい成績を収めており、文化の薫る街になってきたと思います。

文化財では、九戸城、あるいは天台寺については、天台寺はいよいよ見学できるようになりますので、今後はそれらをどのように使い、教育に活かし、次の世代につなげていくのかを考えて参りたいと思っております。

今日はどうぞよろしく願いいたします。

(玉懸部長)

続きまして、鳩岡教育長がごあいさつを申し上げます。

(2) 教育長あいさつ

(鳩岡教育長)

それでは、教育委員会を代表しまして、一言あいさつを申し上げます。

この総合教育会議は、新しい教育改革、教育委員会制度を含めまして目玉の一つとして始まったものでございます。この運営につきましては、全体といたしましても非常に重いものと捉えております。

今年度につきましても、おかげさまで市長をはじめ、市長部局の皆さまの多大なるご理解、ご支援を受けまして、おおむね当初予定していた事業等は順調に推移しておりますが、本日のこの機会を活かして、残された本年度の期間、また来年度に向けまして私どもの一つの方向性を示していくことになればと思っております。

今日は限られた時間ではありますが、よろしくお願い申し上げます。

3 議 題

(玉懸教育部長)

ここからは、藤原市長に議長をお願いいたします。

(藤原市長)

それでは、進行いたします。

議題に入る前に、教育部長から全体的な説明をお願いします。

(玉懸教育部長)

それでは、私から今回の議題につきまして、全体的な説明を申し上げます。

(中略)

いずれにいたしましても、「学びの機会」と「人づくり」はどちらか一方ではなく、双方に関連がございます。このような形で、教育大綱「学びの広がるまちづくり 未来の広がる人づくり」を念頭において事業を展開しているところです。

なお、本日は時間の都合があることから、議題を絞り込ませていただいております。これから各担当課長からは、議題とした事業を中心に説明させますのでよろしくお願いいたします。

(藤原市長)

「3 議題」に入ります。

皆様からのご意見、ご質問などについては、本日予定している3件の議題の説明が終わった後、一括してお受けすることによろしいでしょうか。

《「はい」の声あり》

それでは、協議の「(1) 学校教育の充実について」を教育企画課から順次説明を願います。

(澤田副部長兼教育企画課長)

教育企画課長の澤田です。

それでは、学校教育の充実について、説明申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

(藤原市長)

次に「(2) 未来をつくる人材育成について」を説明願います。

(澤田副部長兼教育企画課長)

未来をつくる人材育成について、説明申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

(藤原市長)

次に「(3) 九戸城跡の整備、活用について」を説明願います。

(山田文化財課長)

九戸城跡の整備、活用について、説明申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

(藤原市長)

本日予定している3件の議題について説明が終わりました。

皆様からご意見、ご質問など頂きたいと思います。

(槻館教育委員)

まずは、新聞の配付ですが、すばらしい取り組みだと感心しております。私が現職の時にもあればよかったなと思いました。その反応が資料にあります。“興味を見出せずにいる”とか“毎週でなくてもよい”というマイナスの意見もありますが、ある程度こういうマイナスのところは目をつぶってもいいと思っております。最後のコメントにある“2学期も取り組んでいく中でだんだんとうまくいくのではないかと”と、まさにそのとおりに思います。これは私の感想ですがすばらしい取り組みだと思えます。これを是非続けて欲しいと思います。

2つ目は、二戸授業モデルの更なる徹底と資料にあります。何年か前に点検のようなものを提示されました。その当時は当たり前のことと思いましたが、実際には1時間の授業の中で組み立てられていない授業が目立つと聞いておりました。特に中学校の授業が目立つと言われていました。それから、指導は行き届いていると思えますが、どの授業も型どおりにはまった授業になっていると思っております。

ここからが質問です。表面上は定着しているように見えますが、実際にはそこから質を高めていくための細かい質というものが二戸授業モデルの中に示されていますが、現段階で実態としてその質までかなっているのか、どの程度目指す授業がなされているのか実態について教えてもらいたい。

3つ目ですが、海外派遣研修のことです。ここ2年、高校生が参加し報告会でも聞かせてもらいました。昨年でしたか、市外の生徒が5割以上参加したということですが、参加者は高校生ではなく、その分を中学生に広げたらいいのではないかと思います。発表会の中身を聴いた時にそう感じました。

あとは細かいことになりますが、槻蔭舎きぼう塾の移動学習ですが、希望者全員が行けるのか。希望すれば漏れなく行けるくらいの準備ができているのか、ある程度人数は絞られているのか、細かい点ですがお願いします。

(藤原市長)

いま4点について質問いただきました。

子ども新聞については大変良かったと褒められた次第でありありがとうございます。

2番目の二戸授業モデルは本当に定着しているのかと、槻蔭舎きぼう塾の実態について先に答弁をお願いします。

(山火学力向上推進監)

二戸授業モデルの定着の状況について説明いたします。

最初に槻舘委員がおっしゃるように、中学校は課題のない授業が多く見られましたが、現在ではどの授業も課題があり、展開部分で活動をして、終末で振り返りというところにはまっております。そういう意味では、以前よりは定着していると思いますが、更なる質の向上というところでは、課題の中身、内容が黒板にあるだけで、授業の本質に迫るような課題になっていない授業も実際に見られます。やはり授業の中では、学習課題というものが大変重要になってくるので、学習課題をしっかりと学習の狙いに迫るような質の高いものにしていく、それから学習活動の質を高めて狙いに迫るところを今後も更に進めていきたいというところです。

そのために、教職員が入れ替わるので、4月1日の研修会で授業モデルについて説明して、その他にも私の方で学校を訪問して、二戸授業モデルに即した授業になっているかどうかを見ながら各校にアドバイスしているところです。

(澤田副部長兼教育企画課長)

槻蔭舎きぼう塾の移動学習についてです。中学生対象の槻蔭舎きぼう塾については、希望のとおりとなっております。小学生対象のジュニア槻蔭舎きぼう塾は、定員が少しオーバーしたので抽選による人選となっております。

(藤原市長)

子ども新聞について何か付け加えることはありますか。

(玉懸教育部長)

新聞を活かした教育活動では、N I Eに関して昨年度盛岡開催があり、私も参加させていただきました。その中で、新聞が果たす教育的な役割について、読書活動等も行ってきました。活字離れに対して本のみならず、新聞を活かした活用方法やアンケート等もとりまして、各家庭で新聞を購読していない家庭もすごく増えてきているというデータもありました。これらを見て、家庭における活字離れがあるならば、学校で週に1回子ども新聞を活用して、まずは新聞というものを手に取って、新聞の肌触り、インクの臭い等も感じていただきながら、新聞がない日は寂しいという気持ちになってもらえればという夢を持ちながら、事業を展開、進めていければということで始めました。

事業実施に当たりまして、1年ぐらい前に次年度の事業等の検討があるわけですが、担当課ともいろいろ話を詰めて、現在に至っているわけです。やらせていただいたところ、子どもたちの感想、保護者の感想を拝見するにつけ、行ってよかったと思っております。毎日読みたいと言う子どももいるようです。家に帰って、そういう新聞の話題で家族の話し合いであるとか、こういうニュースがあったねと子どもから保護者が聞かれる場面もあると聞いております。文字というものを見たりするのは、いろいろな文化、文明が発達してもなくなることはないと思います。いろいろな面では進んでいくのですが、まずは

見るという頭の中で情景を浮かべながら考えると、いろいろな部分で今後とも必ず役に立つと思っておりますので、令和2年度も引き続き、この事業を進めて参りたいと思っております。

(藤原市長)

海外派遣については私からお答えいたします。高校生を始めて2年ですか。市の人口が減っていく中で、18歳に市外に行った人が22歳で帰ってくればよいですが、なかなか帰ってくる場所もないと、そうすればこの地域が好きでなければならない。

福岡高校がグローバルな人づくりに取り組んでどのくらいですかね。グローバルな視点、ローカルな視点も併せ持った人づくりを進めましょうと、世界的な田中舘愛橘博士ではないですが、そういう視野を持った人間を育てようと修学旅行も台湾にしておりますし、一つはグラスゴーに行っているこのような研修も併せ持つということを進めております。

実は今年、岩手大学70周年に行ったら、岩手日報の社長と岩手大学の学長の対談で、グローバルな人づくりのことを言っていました。これは福岡高校のほうはずっと進んでいるなど、先にやっていって、あとは人づくりが必要ということで、これはいいことだと強く感じております。

ローカルな人間について何をしなければならないのか、小学校では副読本で偉人などを勉強していると思いますし、今、福岡高校では、カシオペア講座に市の職員が行って講演していますし、先般は私も行きました。県立大学の先生と対談する時に、今の二戸の課題がなんなのか、人口が減っていった時にどのような弊害が出るのか、それをどうすればよいのかを授業の中でも話し合っていました。すごく進んでいる、他にないような人づくりが行われていると強く感じてきたところです。

海外派遣では、2年目には工業高校の応募がなかったと記憶しておりますが、今年はお出してきたと。全体の中で二戸地区は人づくりが進んでいるのではないかと。小学校、中学校、高校も一体となった人づくりが必要ではないかと考えていて、まずは3年から5年、ある一定の期間やらせていただきながら、その後の検証が必要と考えているところです。

(鳩岡教育長)

2年間休止して、海外派遣を再開しましたが、その時の中学校2年生が来年大学を卒業して市役所の職員になりたいという子も出ていると聞いております。採用されたときの話ですが、1人でも、2人でもそういう形で実を結べばいいと思っております。

(菅原委員)

他の教育委員会の会議でもご説明をいただいている話です。大変一生懸命に、やれるだけのことはやってらっしゃると受け止めさせていただいております。

新聞等は、いろいろと話し合いを持つ機会にもなると思います。新聞だけではないと思いますが、いろいろな話をするには、自分以外のものに興味を持つきっかけになると思います。やはりこれが大切なことだと常々思っております、社会性を先の先に頭において、今の行動を形付けていくことがとても大切ではないかと思っております。

その中で、今後のことになっていくと思いますが、いろいろ学習で知識を得て自分のや
っていくべき武器を持ちますが、新聞や社会を知ることは、社会に参画していくことで、
今度は自分の未来を具体的に形付けていくようになっていくと思います。

新聞等の効用などはこれから出てくるものだと思います。そこからデータは取りづらいと
思いますが、今の自分から将来の自分に結びつける道筋等の意見等が上がっていく、聞く
ことですが、そういうシステムを作っていければいいと思います。そういうことによって、
どれも大きな話ですが、子どもは学校生活がすべてですし、家庭もあります、その中で
学校の中だけではない広い視野で生活してみることで、自分が抱える様々な問題を気にし
なくなるかもしれません。また、そのイライラがいじめになっていると思いますが、そう
ではない違うことを常に考えると教育、方法が何かあればと考えております。

それに関連ですが、小学校から教育委員会の枠組みですが、常に幼児のことが気になっ
ております。様々な問題の発生はすべて幼児にあると思います。ただ、枠組みとすれば、
そちらは教育委員会ではないので、連携をしているのは知っておりますが、今後もこうい
う割り振りなのかいつも気になっております。

九戸城に関しては、もっともっと人を集める方向で考えられているのか。もちろん、市
民にとっては、良い憩いの場というものはすばらしいことですし、あったほうがいいです
が、千田先生の公演など、やはり有名人には弱いというのがあります。そういうことでも
う少し、ドラマ化とか広く感情的にできないかと。今は歴史的に何とかしようという話
が多いですが、感情を伴った人集めも考えられていければいいと思っております。そのあたり
の未来をお聞きしたいと思っております。

(藤原市長)

一点目は、新聞等を読んで学校生活の中で、もっと違う視野を広げる方法はあるのかと
いうことだと思います。一つは、これからICTという時代になり、岩手日報、デーリー
東北のように、アーカイブという形で二戸が載った新聞記事を後からも見られます。それ
らを引き出して、中学生あたりは読めるようになればいいと思います。社会に出て、勉強
しても宝の持ち腐れになると、武器を持ってそれを使わなければダメなのだとすれば、
それを活用できる人にならなければならない。よく言われるのが、高校生などは、ボラン
ティアなどに参加しながら社会のことを覚えて、社会に出たときには社会は待ってくれな
い、それができないから大学などに行くのですが、その大学の中でもよく社会に出て戦力
になれるように訓練していかなければならないと思います。

2番目の幼児等については、よく言われるのは生涯を通じた人づくりは、病気もそう
ですが履歴などがみんなつながっているのかを医師から学校保健会が言われているところ
です。小学校で5、6年生までの予防接種の結果、病気、アレルギーなどがつながっている
のか、連携どうなっているのかよく言われることで、これらについても幼児などに活かし
連携しながらお互い情報交換しているのか、特にも障がいの子供が増えてくればそういう
ことも心配されていると思います。

3つ目の九戸城については、ただ保存するだけではなく活用することがまちづくりにつ
ながると思いますので。

(鳩岡教育長)

市町村によっては、子ども課という形で市教委が幼児教育も担っているところもありますが、菅原委員のご意見はそういう組織再編が将来的にあるのかということを含んでいると思いますので、ここは総合政策部長から意見を。

(田中館総合政策部長)

組織再編も含めて、今は文化財もそうですが、教育委員会だけではなかなかやれないというものもあって、もっともっと広げていかなければならない。チームとして取り組んでいかなければならない。先ほど山田課長から話がありましたが、活性化というものは、その部分、講座のあり方も文化庁自体変わってきている。一緒にチームとなってやっていかなければならない。福祉もそうなりますが、幼保連携が教育委員会との連携の形が非常に重視されています。そうしないとうまく回っていかない。ですから、総合教育会議というのがなぜあるかというのは、そこも連携して行くという形の中でそういう話し合いをしましょうということです。こういう方向にあることは確実ですので、その方向を踏まえながら、どういう形がよいのか今まさに考えているところです。

(藤原市長)

九戸城の話は、高橋克彦先生の「天を衝く」の本が出たとき、ドラマ化できないかNHKに行ったことがあります。その時は、40 数話を続けるぐらいのエピソードがそこにあるのかと言われました。大河ドラマは本数をつなげていかなければならないのでダメでしたが、代わりにBSで九戸政実の46分編成を2回放映してもらいました。これからもお願いするのはいいのですが、40 数話までいなくても、2回、3回のものでも流してもらえればいいと思います。

《田中館総合政策部長 中座》

(玉川委員)

英語教育ですが、海外派遣のグラスゴーかアジアということはなるほどと思いました。今、国でも外国人をどんどん受け入れすることに賛否両論ありますが、二戸にも外国人はたくさん来ております。アジアの人が多いような気がしております、それでアジアという話が出てきているのかと思います。未来に向けて人を作っていくうえでは、英語が非常に大事だと思っております。二戸市教育委員会では、ALTの他に1人英語の方を小学校に就けるすごくよい取り組みをしていると思います。海外派遣も含めて、アジアも大事ですが、英語に重点を置く人づくりが今後の二戸のために、二戸の力となる人を作っていけると思っていますがどのようにお考えなのか。

情報教育ですが、少し前にPTAを盛んにやっていた時は、メディアをあまり良いイメージで捉えておりませんでした。この間文化会館に行ったら、新聞記事になったSNSのポスターが貼ってあって、子供たちが作ったルールというところが面白くて、情報をう

まく取ってどうしていくのかという意識付け、動機付けをしてあげればうまく使っていけるようになるし、流れに乗っていけると思いました。その辺は、価値観が180度変わる話で難しいのですが、今後そういうことうまく使うという教育をどう進めていくのか。

この間テレビで、神奈川県の中学校の校長先生が取り上げられていました。そこでは、期末テスト止めた、宿題も止めたことで取り上げられていました。なぜそういうことになったのかというと、その授業の中で、今覚えてもらいたいことをしっかり習得してもらいたいから、授業に向き合う子どもたちの意識を高めるために、やらされる学習ではなく、学びたいとインセンティブを強める学習の形態にしたいということであるほどと思いました。二戸授業モデルの話があり、授業のやり方の仕組みと思いますが、子供たちが食いついていく、学びたくなるような方向に視点を置いたという点ではどうなのか。

(山火学力向上推進監)

英語教育については、これからの社会を生きていくためには、まずは英語が話せることが必須になると思います。来年度から小学校でも英語が教科化となりますので、今後も英語教育、外国語活動については大事に考えて取り組んでいきたいと考えております。EATについても継続したいと思っております。

情報教育については、今の時代、携帯、メディアを使わないことは不可能な状況になってきておりますので、それであればうまく情報を取り扱う、情報に惑わされずに、きちんとした判断力をつけるというところに力を入れて、今後の情報教育を指導していかねばならないと考えております。

神奈川県のお話がありましたが、学習への動機付けにつきましては、二戸授業モデルの中でも、子どもたちの意欲を掻き立てるような導入というところは示しているところだと思います。授業で一番子どもたちを引き付ける部分となれば、導入で子供たちが学習することの意味をきちんと捉えて、また学習することの喜びを感じさせることが大事だと思いますので、二戸授業モデルでも取り組んでいきたいと考えております。

(佐々木委員)

取り組み授業、新聞の授業など、私は学校に訪問する機会が大変多く、各学校を見ていても担任の先生の取り組みによっても違うとは思いますが、すごくよく活用されていて良いと思っております。

派遣研修の人選については、常々、各学校に任せられていて、手を上げる生徒が多ければその中から学校内で適切な人選をしていると思っておりますが、学校任せにしないで、最後は第三者の教育委員会の目で選ぶのもいいのではないかと考えております。

小学生の研修の件ですが、対象が多い場合は抽選でとことでしたが、抽選がいいのか悪いのか、その辺も考えてもらいたいと思っております。海外研修も英語力がどれだけなのか、本当にその研修に参加したい気持ちがどれだけなのかというところをつなげていただきたい。継続的な事業となるわけですから、中学校に入ったならば、それに向けて取り組んでいる気持ちで選んでいただきたいと思っております。

芸術、文化、スポーツの振興ときちんと掲げているいろいろな取り組みがありますが、今年度

スポーツ推進監がいなくなっていました。これは、スポーツ施策への縮小を意味しているのか、組織図を見た時にどういうことなのかと思いましたが、お聞きいたします。

先生方の働き方改革などで部活の面が考えられていますが、部活動の指導に対して二戸市はどのように考えられているのか。

(澤田教育部副部長兼教育企画課長)

海外派遣の件ですが、学校に人選を任せておりますが、先ほど槻館委員からは市外の高校生の分を中学生にという話もありました。そういうことも検討、検証も加えながら考えていきたいと思えます。

小学生の抽選につきましても、東京に行くことになるので、応募者全員となると予算的にも考えなければなりません、そのような意見もあったということで検討していきたいと思えます。

部活動指導員の件ですが、昨年度あたりから国、県を通じて話がありました。新聞ではたびたび記事になりますが、教職員の働き方改革に取り組んでいるのだけれどもなかなか進んでいない。部活動指導員、スクールサポーターなど、国では予算を厚くして教職員の働き方改革を進めていくという流れの中で、二戸市におきましても、来年度に向けて導入するような方向で考えております。ただ、どの中学校に何人、どういった人をお願いするのかは現在整理しているところです。

(玉懸教育部長)

補足いたします。最初の海外派遣の選定については、英語の学力、学びたいという気持ちなどについては、そこを一番わかっているのが学校現場です。私どもとすれば、現時点では、その生徒を分析した結果で上がってくる学校推薦で選ばせていただいております。

ジュニアきぼう塾になりますが、学びたい気持ちが当然1番目にあるのかもしれませんが、まだ小学校5、6年生であります。東京に行ってみたい、まだ1回も新幹線に乗ったことがない、そういう我々の心が洗われるような動機の児童もおります。ジュニアの関係でありますので、これはどなたからも「えっと」言われたことはなく、複数になった場合の人選ですが、学校で恨みっこ無しの抽選会をやらせていただいております。今年度は1月8日募集実施予定になっておりますが、現時点におきましては従前の選考方法で進めさせていただき予定となっております。

組織ですが、結論から申しますと、決して二戸市におけるスポーツ事業、スポーツ展開を軽んじているというものではありません。組織はある意味生き物というところもあり、スポーツに限らず企業誘致であるとか、いろいろな部分で何名かの推進監というポストを設けながら展開したり、無くなったりを繰り返すわけです。その業務がなくなるわけではなく、ポストだけが平成31年度からなくなっています。

実際にやっていく中で、管理職の責任の所在がはっきりしなくなってきたというご意見がありますが、生涯学習全体の中で、教育委員会の中には教育長、私部長、担当課長がおりますので、組織の中で一体となりましてスポーツに限らず、文化部門も含めて取り組みを進めてまいりたいと思っております。ご心配頂き大変ありがたく、申し訳ないところで

すが、そういう心配がないように私ども組織一体となって取り組みを進めていきたいと思
いますので、今後ともよろしく願いいたします

(藤原市長)

3つの議題はよろしいでしょうか。

《「よい」の声あり》

4 報告

(藤原市長)

次に4の「報告」です。事務局から報告願います。

(玉懸教育部長)

それでは、2点についてご報告申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

5 その他

(藤原市長)

それでは(5)のその他でございますが皆様から何かございますか。

《「なし」の声あり》

(藤原市長)

本日は、教育委員の皆様からさまざまご意見を賜りました。この場でいろいろなご意見をいただきましたので、今後とも事業に活かしていきたいと思
います。

本日はありがとうございました。